

2019 年度スポーツ庁委託事業

Special プロジェクト 2020

(特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会の開催支援事業)

第 4 回全国ボッチャ選抜甲子園

委託事業成果報告書

一般社団法人日本ボッチャ協会
全国ボッチャ選抜甲子園実行委員会

目次

1	はじめに	3
2	事業の目的	4
3	実施日程および会場	4
4	事業の実施体制	4
5	実施報告	5
6	事業の成果と課題	7
7	今後の方向性について	9

1 はじめに

2020 東京パラリンピック競技大会を次年度に控え、ボッチャについては、子どもから大人まで障がいの有無に関わらず楽しめる競技として、全国的に人気が高まってきている中、本事業は全国の特別支援学校および特別支援学級等に通う児童生徒の皆さんが目指す目標の大会として、子どもたちが憧れる日本一の大会として発展していくことを目標としている。

大会出場をきっかけに、全国の特別支援学校および特別支援学級等に通う児童生徒の皆さんが生涯にわたってスポーツに親しむこと、日本選手権出場や日本代表選手として活躍することを目標として「競技」としてボッチャに取り組むこと、また若手選手の発掘育成につなげることを目的に開催している。

回を重ねるごとに、本大会出身者が日本代表選手に選ばれていることもあり、全国の特別支援学校および特別支援学級等に通う児童生徒の皆さんにとっては、本大会出場がパラリンピックの日本代表選手を目指すことができる第一歩としての大きな目標の一つとなっている。

本報告書は、第1回大会からの成果と課題をまとめることにより、第4回大会の成果と課題、事業の今後の方向性についてもとめたものである。

2 事業の目的

- ① パラリンピック正式競技であるボッチャの特別支援学校への定着を図るとともに、大会が日々の学習の成果を発揮する場とする。
- ② 特別支援学校に通学する児童・生徒が、東京パラリンピックを身近に感じ、意欲的に日々の体育学習に取り組めることを目指す。
- ③ 大会参加においてマナーの習得および、ボッチャを通じた選手同士の交流を図り、生涯スポーツへの意識を高める機会とする。
- ④ 将来ボッチャ選手として活躍を目指す人材の発掘の機会とする。
- ⑤ 大会を通して審判員の技術力の向上、指導者の指導力向上の場とする。

3 実施日程および会場

日程：2019年8月13日(火)

開会式 10:00～

試合開始 10:30～

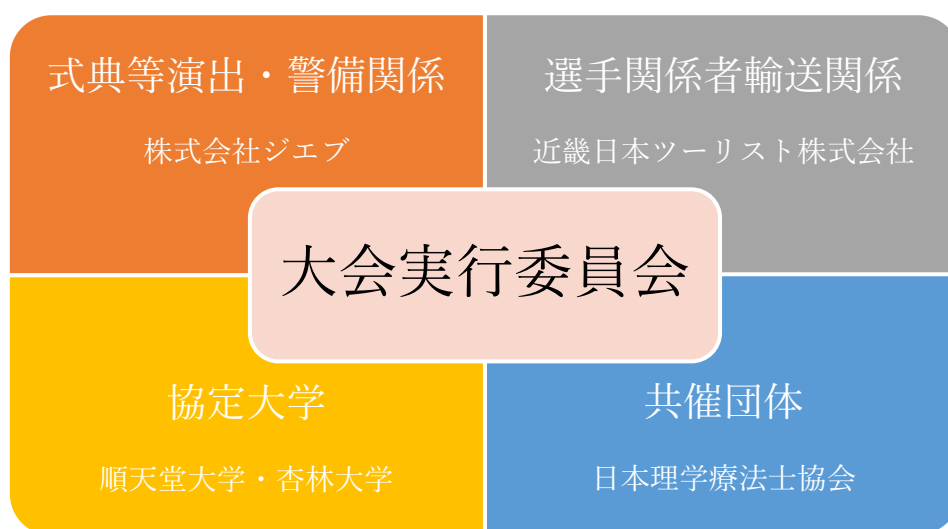
閉会式および表彰式 16:00～

場所：港区スポーツセンター

4 事業の実施体制

今大会は大会実行委員会を立ち上げ、外部と連携しながら運営している。

- ① 競技に関わる運営：実行委員会
- ② 輸送に関わる運営：近畿日本ツーリスト株式会社コーポレートビジネス
- ③ 大会式典等演出に関わる運営：株式会社ジェブ
- ④ 共催団体：公益社団法人日本理学療法士協会
- ⑤ 協会協定大学：順天堂大学・杏林大学



5 実施報告

【参加校について】

団体戦（1チーム：3名＋控え選手1名） 24校によるボッチャ大会

	ブロック	学校名	チーム名
1	昨年1位（優勝）	東京都立府中けやきの森学園	けやっきーず
2	昨年2位（準優勝）	東京都立鹿本学園	THE バンビーズ
3	推薦枠	東京都立村山特別支援学校	村山フェニックス
4	東北	山形県立ゆきわり養護学校	チームYUKIWAR I
5	東北	青森県立八戸第一養護学校	ミラクルドリーム81
6	関東	埼玉県立蓮田特別支援学校	蓮田ボッチャクラブ
7	関東	千葉県立桜が丘特別支援学校	桜が丘ファイターズ
8	関東	群馬県立あさひ特別支援学校	Sun Rise
9	関東	横浜市立上菅田特別支援学校	KBD SUPER
10	関東	茨城県立つくば特別支援学校	茨城県立つくば特別支援学校
11	関東	東京都立墨東特別支援学校	旋風Kid's
12	近畿	大阪府立藤井寺支援学校	大阪府立藤井寺支援学校
13	近畿	大阪府立光陽支援学校	t e a m KOYO
14	近畿	大阪府茨木支援学校	大阪府茨木支援学校
15	東海	豊田市立豊田特別支援学校	THE Boys
16	東海	愛知県立豊橋特別支援学校	とよまつSSB
17	東海	瀬戸市立瀬戸特別支援学校	瀬戸市立瀬戸特別支援学校
18	東海	愛知県立一宮特別支援学校	サザンクロス
19	北信越	福井県立福井特別支援学校	福井特別支援学校
20	北信越	石川県立いしかわ特別支援学校	チームi
21	中国四国	鳥取県立皆生養護学校	p u r eな w i n n e r ♪
22	中国四国	香川県立高松養護学校高等部	うどん4玉

23	九州沖縄	長崎県立諫早特別支援学校 長崎県立佐世保特別支援学校 合同チーム	長崎CHAMPON' S
24	九州沖縄	沖縄県立鏡が丘特別支援学校	琉球ミラーイーグルス

【総来場者数】約 700 名

- ・選手：89 名・来賓：20 名
- ・関係者：250 名・一般：約 200 名
- ・プレス：16 社 36 名・スタッフ：約 100 名

- 書類審査を通った 24 校で予選リーグ戦を行い、勝ち上がった上位チームで決勝トーナメントを行う方式で開催している。大会の競技性を高め、全国の特別支援学校および特別支援学級等に通う児童生徒の皆さんが、日本一を目指して戦う大会として位置付をしている。



全国一を目指して各校緊迫した熱戦が繰り広げられた。
各校の応援幕が会場いっぱいに掲げられている。

6 事業の成果と課題

① 参加校数（応募校数）の変化について

<第1回>

江東区 東京文化スポーツ会館（Bumbu）で開催。

参加校 22校で合同チームあり。チーム数では18チームの参加。

<第2回>

申し込みは前年を大幅に上回る36校であった。

1回戦からトーナメント戦にすることにより、申し込み全校を受け入れた。

港区 港区スポーツセンターで開催。

<第3回>

前回大会同様の36校の応募。第3回大会より、大会名を「全国選抜ボッチャ甲子園」と変更し、参加校を絞って開催。選考の結果、全24校で開催。

<第4回>

第3回同様36校の応募があったが、今大会より今まで参加がなかった地域（学校）から応募があった。前大会同様、選考の結果全24校で開催。

② 2020 東京パラリンピック開催前年ということもあり、今まで以上に注目度の高い大会となり、多くのメディア取材があった。

③ 年々学校の先生方も審判講習やサポーター講習などを受講し、ボッチャ競技への理解を深め、試合に臨んでいる姿が見られる。以前は競技に関する質問はなかったが、今大会前には「公式練習を開催して欲しい」「床面を見せて欲しい」等の質問が寄せられるようになった。これは、全国一を目指して真剣に練習している生徒たちの思いに応えようという先生方の姿勢であり、そのことが生徒たちの競技力の向上につながって、年々競技性の大会へと発展している。

④ 大会出場校に選ばれるように、学校生活においてどう過ごしていくと良いのかと考えるようになり、練習に対する姿勢も変化が見られ、普段の学校での様子に良い変化がみられるという報告があった。

⑤ 遠方から出場する学校にとっては、参加にかかる旅費の負担が多く、そのため多くの学校がそれぞれに工夫を重ねている。今大会でも、地元企業との連携により、スポンサーとして遠征費用を補助してもらったり、あるいは助成金を確保したりするなどして費用を確保する、そのほか都道府県に参加にあたり推薦状を出してもらうことで、自治体から補助を受けるなど、ボッチャ甲子園への出場が障害を持つ子ども達と社会との繋がりに一役かっているといえる。

このように、地域と連携することにより、地域の皆様にもボッチャ甲子園を知って頂くきっかけとなり、応援が子どもたちの力となっている。

⑥ 今大会より、公式練習の時間を設けた。前日に公式練習の時間を設けたことにより公式練習に参加した学校は、前日に受付を済ませることで、大会当日の朝の混雑

緩和を図った。その事で、品川駅からの輸送時間に余裕を持たせることが出来、受付時に込み合うことなく安全に受け入れることが出来た。会場と最寄り駅の輸送については、前大会より行っている。車椅子使用者が多い参加者が安全に来場するためには必須である。

輸送については今大会も多くの資金を必要としたが、スポーツ庁の委託事業として開催できたことと合わせ、委託会社との連携により、輸送用車両を十分確保することができ、安全に開催することができた。

- ⑦ 競技運営においても、専門の業者へ委託、連携により予選リーグと決勝トーナメントの実施から、センターコートでの決勝戦、知事のビデオメッセージ、オリンピックとの交流、代表監督からのメッセージ等、大会の競技性が高まり、参加者の今後の競技意欲に十分繋がる、特別支援学校の日本最高峰のボッチャ大会として開催することができた。

7 今後の方向性について

この大会は特別支援学校のボッチャ日本一を決めるということ以外にも若手選手の発掘という意味もある。この大会出場をきっかけに、日本選手権出場を目指す選手が増え、育成選手に選出される選手もでてきた。

回を重ねるごとに、全国大会として子どもたちの目標となる大会へと進化するとともに、教育機関を通して卒業後を含めた社会とのつながりを生む大会となっている。

今後は、ブロック予選を開催する件も出てきている。参加希望の学校が増えれば、今後は予選会を開催する県が増えてくると思われる。そのためにもますます地域との連携が必要となってくる。

今後も地域社会と連携の中、予選を勝ち上がった学校（チーム）が、「全国ボッチャ選抜甲子園」に出場する大会となるのを目標として、大会を作り上げていきたいと考えている。

今後さらに、地域との連携、各県の教育委員会との連携で、より社会的意義のある大会にしていきたい。